

豊臣秀吉の天下取りを影で支えた軍師

黒田官兵衛

黒田官兵衛

―黒田氏の本拠 黒田六郷―

官兵衛は、播磨国姫路（兵庫県姫路市）の姫路城で生まれました。実名は孝高（たかたか）といひます。

官兵衛が生まれた頃の播磨国は戦国大名毛利氏に従う武将が多かったのですが、信長の近畿地方統一が見え始めると、主君小寺政職に勤め、いち早く信長側となります。

黒田孝高像（大阪城天守閣蔵）

毛利氏討伐のため播磨国に入つた秀吉を姫路城に迎えた後は秀吉に仕え、本能寺の変で信長を討つた明智光秀を討伐した山崎の合戦をはじめ、賤ヶ岳合戦、小田原攻めなどに参戦し、秀吉と一心同体となつて天下統一に大いに貢献します。

その官兵衛を輩出した黒田氏は、近江国（滋賀県）の北近江を治めていた京極氏の流れを汲む一族と伝えられています。

鎌倉時代、近江国を治めていた佐々木信綱が四人の息子たちに領地を分け与えます。そのうち愛知川以北をもらつたのが京極氏初代で四男の氏信でした。氏信の孫の代にあたり、黒田荘（郷）を領地としたのが黒田氏の初代とされる宗満で、その流れが官兵衛へとつながると黒田家の歴史書『黒田家譜』は伝えます。

北近江では黒田氏ゆかりの地といわれるところが2か所あります。一つは、黒田氏の発祥の地と伝わる伊香郡黒田村（長浜市木之本町黒田）で、もう一つは京極氏よ

り領地を分け与えられ黒田氏の本拠地と伝わる米原市の黒田六郷（米原市本郷ほか）です。

黒田六郷とは、『改訂坂田郡志』によると、現在の米原市本郷、堂谷、大鹿、志賀谷、北方、山室とされています。その中でも本郷には、『御屋敷』と呼ばれている黒田氏の居館跡や、黒田家の始祖（しそ）である宗満を祀つた荒尾神社、黒田家の菩提寺である法證寺など、今も黒田氏の痕跡が残っています。

また、室町時代後半に京極氏が北近江を支配するために整備した上平寺城跡や京極氏館跡にも、黒田氏の足跡が見ることが出来ます。上平寺城跡や京極氏館跡、城下町跡などは現在も米原市上平寺に残っており、京極氏遺跡として国の文化財（史跡）に指定されています。これら城館を鮮明に描いた江戸時代初期の「上平寺城絵図」（市指定文化財）には、城下町の南西に家臣団の屋敷群があり、浅見・若宮・多賀などとともに黒田の文字が見えます。

[illegible]

これらの礎石は、現在、伊吹山文化資料館の裏庭に移設され、見学することができます。上平寺城が機能していたのは、16世紀前半のわずか20年ほどですが、一族であり、家臣でもあった黒田氏の一端を物語るこゝとが、できるといえるでしょう。

Vol. 4

まいばら歴史学び隊

9月には、黒田家発祥の地である本郷区のサロンで歴史講演会を開催されました。講演会では、「黒田家譜」や家系図の巻物も登場し、参加者のみなさんは地域の歴史について熱心に耳を傾けておられました。会員の一人である高橋さんは「黒田官兵衛のルーツは諸説あるが、黒田家のルーツは米原に軍配が上がる!」と力強く語っておられました。

今後の展望として、代表の小松さんは「米原は歴史深いところで、その魅力を地域の住民や子どもたちに伝えたい」と語っておられます。会員は随時募集中です。関心のある方はぜひご参加ください。

リポーター

市民窓口課

稅務課

收納対策課

総務課

伊藤 かけひ

算

石井

中村

- 会 員 正会員 7人 賛助会員 18人
- 活動日 例会 毎月第2、第4水曜日
- 活動場所 ボランティアセンター 三島荘
- 連絡先 代表 小松 博夫さん



▲まいばら歴史学び隊のみなさん